

令和 6 年 10 月
水 産 庁

みなみまぐろ保存委員会（CCSBT）第 31 回年次会合の結果について

1 ミナミマグロ保存委員会（CCSBT）

ミナミマグロの持続的利用を目的とする国際機関。

メンバーは日本、豪州、ニュージーランド、韓国、台湾、インドネシア、南アフリカ及びEUの8か国・地域。但し、EUは今回欠席。

その他、セーシェル、関係する国際機関及びNGO等がオブザーバーとして参加。

2 日時・場所

令和6年10月7日(月) から 10 日(木) まで台北（台湾）で開催。

3 我が国出席者

川島水産庁資源管理部参事官（我が国代表）ほか、水産庁、外務省及び業界の関係者。

4 結果

(1) ミナミマグロの総漁獲可能量（TAC）

科学委員会からの勧告に従い、現在の総漁獲可能量（TAC）である 20,647 トンを維持することで合意された。

(2) ミナミマグロの国別配分

毎漁期の国別配分は表のとおり昨年のまま維持することで合意された。

(3) 次回年次会合

次回年次会合は、令和7年（2025年）10月にインドネシアで開催される予定。

[表]2024 年～2026 年における総漁獲可能量及び国別配分

	2024-26 年	(参考) 2021-23 年
日本	7, 295t (※ 1)	6, 245 t (※ 1)
豪州	7, 295t	6, 245 t (※ 2)
韓国	1, 468t	1, 257 t
台湾	1, 468t	1, 257 t
インドネシア	1, 315t	1, 095 t
NZ	1, 288t	1, 102 t
南アフリカ	500t	428 t
E U	13t	11 t
調査漁獲枠	6t	6 t
合計	20, 647 t	17, 647 t

※ 1 : 我が国から、インドネシアに 21 トン、南アフリカに 27 トンが毎年移譲される。

※ 2 : 豪州から、7 トンがインドネシアに毎年移譲される。